

指定ごみ袋による収入は何に使われているの？

那須塩原市では平成21年度に生活系ごみ処理の有料化を開始しました。皆さんが使っている指定ごみ袋による収入は「ごみ処理手数料」として、袋の製造・流通の経費のほか、ごみ処理の費用などに充てられます。

有料化しない場合、ごみ処理の費用などは全て税金で賄われます。同じだけの税金を納めていても、ごみを多く出す家庭とあまり出さない家庭があるため、不公平が生じてしまいます。ごみを出す人がごみの排出量に応じて「ごみ処理手数料」を負担することで公平性が確保できます。また、負担を軽くするためにごみを出さないようにしようという意識が働くため、ごみの減量・資源化につながります。



～平成30年度はごみ処理の有料化が開始してからちょうど10年目。
有料化の意義、ごみの減量・資源化について考えてみましょう～

平成28年度の指定ごみ袋によるごみ処理手数料の収入は、1億8,804万3千円(488万9,100枚)でした。この手数料収入は、以下の費用に充てられます。

用途	費用	使用目的
指定ごみ袋の製造・流通	7,934万7千円	指定ごみ袋を製造・配送・管理する費用、販売する費用
ごみ減量化対策	2,471万5千円	ごみ出しカレンダー・ごみ分別事典・ごみ分別アプリの費用、看板作製の費用、集団資源回収の交付金、市民一斉美化運動の費用、ごみ減量推進員の報酬など
不法投棄対策	541万3千円	土日祝日の不法投棄監視の費用、監視カメラを設置する費用、看板作製の費用
那須塩原クリーンセンターでの処理	7,856万8千円	可燃ごみ・不燃ごみを処理する費用、資源物を資源化・再商品化する費用、施設の光熱水費など

平成30年度のごみ出しカレンダーは
広報なすしおばら3月5日号(次号)に併せて配布します



ごみ出しカレンダーは、行政連絡員を通じて各戸配布します。また、次の窓口でも3月5日以降に入手できるほか、市ホームページやごみ分別アプリでも見ることができます。

なお、4月から家庭から出るびんの分別方法が変わります。詳しくは広報なすしおばら3月5日号でお知らせします。収集区域(A地区・B地区)に変更はありません。

▶配布窓口

環境対策課、市民福祉課、総務福祉課、箒根出張所、那須塩原クリーンセンター、各公民館、各図書館、各保健センター

ごみを減らし、資源化に努めよう

問い合わせ 環境対策課 ☎ 0287(62)7301

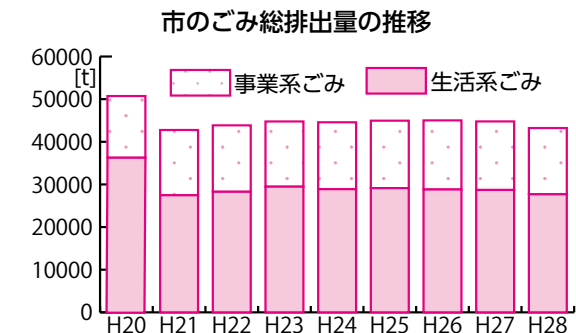
◆ごみの総排出量

ごみの総排出量は、「生活系ごみ」と「事業系ごみ」に分けられます。生活系ごみは、家庭から出されるごみや資源物、集団資源回収(地域団体などが行う資源物回収)に出される資源物を合計したものです。事業系ごみは、小売店、飲食店などの事業所から排出される産業廃棄物以外のごみのことです。

増加から横ばい傾向に転じたごみの総排出量

平成21年度の家系ごみ処理の有料化により減少しましたが、その後はほぼ横ばいです。平成28年度はわずかに減少し、内訳は生活系ごみが64%、事業系ごみが36%です。

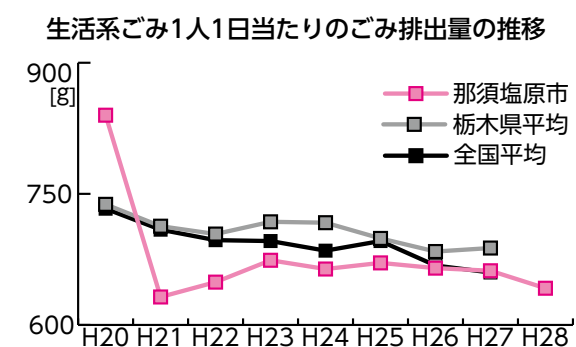
1年間 **43,226 t** 前年比 **3.5%減**



有料化により激減した生活系ごみ

有料化導入後に減少し、その後増加傾向が見られましたが、平成26年度以降はわずかに減少傾向となっています。また、国の平均と同程度で県の平均を下回っています。

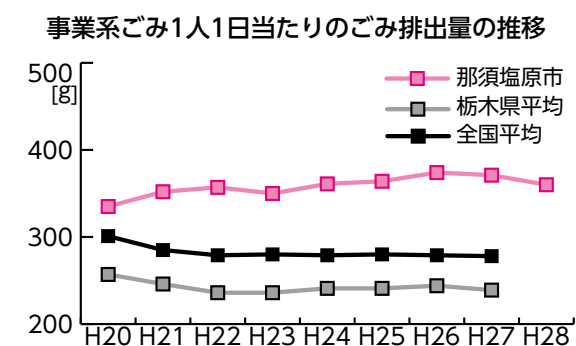
1日・1人 **642 g** 前年比 **3.0%減**



なかなか減らない事業系ごみ

平成20年から増加傾向でしたが、27年度以降はわずかに減少傾向が見られます。国県の平均と比較すると、かなり多い状況です。

1日・1人 **360 g** 前年比 **3.0%減**



低いごみの資源化率

平成22年度と比較するとかなり下がっています。放射能の影響により、クリーンセンターでの焼却灰溶融スラグ*の再利用が進まないことや、民間の資源物回収の取り組みが進んだことが原因と考えています。

*焼却灰を約1,500度の高温で溶融して生成されるガラス状の固形物で、路盤材などに再利用される。

12.8% 前年比 **1.1%減**

